

M&BE の仲間と出会った頃 - 30 年前

It was 30 Years Ago When I Met with M&BE Colleagues

分子研¹ ○平本 昌宏¹

IMS¹

E-mail: hiramoto@ims.ac.jp

私は、1988 年、30 才の時に、Tang 先生の有機 EL、有機太陽電池の論文を読みました。初めて扱う有機半導体、初めての学生指導で、無我夢中で過ごした 1991 年までの 3 年間に、バルクヘテロ接合（私は、アモルファスシリコンとの類似性から *p-i-n* 接合と名付けました）[1,2]と有機初のタンデム接合[3]を、1994 年に光電流増倍現象[4]を発表しました。バルクヘテロ接合の論文を書くときには、この概念は、今後読む人が誰もいなかったとしても、人類のために残しておかなければならないという使命感を感じておりました。研究者の人生は、30 才前半で決まるのではないかと思います。また、アイデアは分野を変えた時に出やすいと思います。一方で、私は、執念深いところがあり、有機半導体へのドーピングの問題は、現在まで一貫して取り組みました[5]。

私は、化学出身ですが、物理の考え方に親和性を感じていたため、M&BE の雰囲気は自分に合っていました。その頃、おそらく北九州の KKR で行われた、分子工学若手の会（下の写真）で、吉田郵司先生、中村雅一先生に初めてお会いし、お話ししたのをよく覚えています。若い時に、M&BE の仲間と出会ったことで、その後の人生が豊かになったと思います。

私は、先行研究のない、誰もやったことのないところで、自分のアイデアにかけて行う研究が好みであったため、その通りの研究人生となりました。それに悔いはないと思っています。

[1] M. Hiramoto, H. Fujiwara, M. Yokoyama, *Appl. Phys. Lett.*, **58**, 1062 (1991).

[2] “Organic Solar Cells – Energetic and Nanostructural Design”, A Book, Eds: M. Hiramoto, S. Izawa, Springer Nature Singapore Pte Ltd. (2020).

[3] M. Hiramoto, M. Suezaki, M. Yokoyama, *Chem. Lett.*, 327 (1990).

[4] M. Hiramoto, T. Imahigashi, M. Yokoyama, *Appl. Phys. Lett.*, **64**, 187 (1994).

[5] M. Hiramoto, M. Kikuchi, S. Izawa, *Adv. Mater.*, **30**, 1801236 (2018) [Progress Report].

